

「未来への一歩を共に、

黄金の國いわてから」

平泉町 中尊寺金色堂

第75回 全日本中学校長会研究協議会

# 岩手大会

**期日** 令和6年 10月16日(水)・17日(木)・18日(金)

**会場** ホテルメトロポリタン盛岡NEW WING(16日)  
トーサイクラシックホール岩手(岩手県民会館)(17・18日)  
岩手教育会館、岩手県公会堂、サンセール盛岡  
盛岡市総合福祉センター、盛岡市勤労福祉会館(17日)

雫石町 岩手山と一本桜



第75回 全日本中学校長会研究協議会 岩手大会

「未来への一步を 共に、  
黄金の国いわてから」



**75th** いわて

第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会

## 岩手大会主題

# 「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく 日本人を育てる中学校教育」

### 開催趣旨

社会のグローバル化や絶え間ない技術革新の波による高度情報化、人口減少による少子高齢化が急速に進む中、我が国では、21世紀にふさわしい、持続可能な社会の仕組みを構築するため、行財政改革、規制緩和、地方分権などの動きが進行している。

学校教育においても、「社会に開かれた教育課程」及び「主体的・対話的で深い学び」の実現、「確かな学力」の定着と「豊かな心」と「健やかな体」を育むための「カリキュラムマネジメント」を確立しなければならぬ。そのような中、岩手県においては、東日本大震災で学んだ教訓を生かし、郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成するため、「岩手の復興教育」を学校経営に位置付け「自らの生き方・あり方を考え、夢と未来を拓き、社会を創造するひとづくり」に取り組んできた。

また、私たち校長には、Society5.0時代の到来を見据えた人材育成やGIGAスクール構想による個別最適な学びと協働的な学びを実現する等、予測困難な時代に対応した新たな学校づくりに向けてのリーダーシップとマネジメントの両機能が求められている。

そこで、全日本中学校長会は、国民の負託に応えるため、教育改革を推進し中学校教育の向上に資するとともに、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」を主題とし、研究を推進してきているところである。

本大会においては、これまでの研究の成果を踏まえつつ、全国中学校長の英知と創意を結集して、主題に迫る具体的な方策を究明し、我が国の中学校教育の充実発展を期するものである。



## 第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会 大会会長

全日本中学校長会

会長 青海 正

第75回全日本中学校長会研究協議会並びに第74回東北地区中学校長会研究協議会岩手大会が「豊かな森に囲まれ、あふれ出る清らかな水に恵まれた」この岩手県盛岡市におきまして多くの参加者のもとで盛大に開催されますことに心からお祝いを申し上げます。また、これまで本大会の開催にあたり、準備を進めてこられました本大会実行委員会委員長であり岩手県中学校長会会長でいらっしゃいます 小野寺 哲男 様 をはじめ、岩手県中学校長会の皆様、そして東北地区中学校長会の皆様や関係の皆様のご努力に対し、心より敬意を表しますとともに、ご支援ご指導を賜りました岩手県並びに岩手県教育委員会、盛岡市並びに盛岡市教育委員会の皆様をはじめ、多くの関係の皆様深く感謝を申し上げます。

さて、現代は将来の予測が困難な時代であり、その特徴である変動性、不確実性、複雑性、曖昧性、いわゆる「VUCA」の時代とも言われています。こうした中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や国際情勢の不安定化、生成AIの登場等、予測困難な時代の象徴とも思える様々な事態が生じ、我が国の教育の課題が浮き彫りになるとともに、学びの変容もたらされました。こうした予測困難な時代においても、社会の変化に柔軟に対応しながら、「人」を育む教育の在り方を追求し、子供たちの学びを支えていくことが必要です。そのために全日本中学校長会は、全日中新教育ビジョンの趣旨を踏まえ、学校における働き方改革を含めた新たな教育課題に対しても果敢に挑戦し、校長相互の資質向上と目的を明確にした研究を推進することにより、学校経営の更なる充実と学校からの教育改革を進めていかなければなりません。そして、全ての生徒が「生きる力」を身に付け、変化の激しい予測困難な時代にあっても、自分の人生を自らの力で切り拓き、たくましく生き抜くこと、また、生徒が生涯にわたって豊かな人生を送り、家庭や地域社会、国家の一員として活躍することに留まらず、グローバル社会においても日本人としての誇りとアイデンティティをもち、国際社会の安定と平和、発展に寄与できる人間となることを願っています。

この生徒たちに託した夢をかなえるため、私たち自身、「しなやかさ」と「たくましさ」を兼ね備えた校長でありたいものです。校長の「しなやかさ」とは、豊かな人間性に裏付けられた包容力とどのような状況にあっても適切かつ柔軟に物事に当たることのできる対応力です。校長の「たくましさ」とは、豊富な経験と知見、そして、教育者としての確固たる信念に基づく判断力、人の心を動かす表現力、社会の変化をいち早く的確にとらえ、進むべき道を見いだすことのできる先見性です。私たちは、しなやかでたくましい校長を目指すとともに、学校のあるべき姿を思い描きながら、教育改革の当事者としてリーダーシップを発揮し、教育活動の充実に取り組み続けたいと思います。本大会の開催意義もここにあります。

結びに、本大会が「未来への一步を 共に、黄金の國いわてから」を大会スローガンに「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」の研究協議主題のもと、充実した協議が展開され、明日からの学校経営に資するとともに、我が国の中学校教育の更なる発展及び充実につながるものと確信しております。そして、今回の成果が次年度の香川大会に引き継がれますことと、全国の会員の皆様、お一人お一人の更なる御活躍を祈念いたしまして大会挨拶とさせていただきます。



## 第75回全日本中学校長会研究協議会岩手大会 実行委員長

岩手県中学校長会

会長 小野寺 哲 男

「未来への一步を共に、黄金の國いわてから」のスローガンのもと、第75回全日本中学校長会研究協議会(兼第74回東北地区中学校長会岩手大会)を本県で開催できることに、心からの感謝と皆様への歓迎の意を表します。ようこそ盛岡へ。

コロナ禍を経た私たちは、「参集型の研究協議会が当たり前ではないこと」を改めてかみしめています。この協議会ができることに重ねて感謝いたします。

さて、本大会の研究協議会主題は、「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」です。本県は約13年前に東日本大震災で甚大な被害を受けた県の一つです。その際、国内外から物心両面にわたり多大な支援を受け、現在も心を寄せていただいております。本当にありがとうございます。あの時の中学生は現在20代後半の大人となり、よりよい世の中を創る人材として各地で活躍しているとらえております。まさしく主題で示す「新しい時代を切り拓き、よりよい社会を形成」している日本人であります。これまでの中学校長の先輩方をはじめ、教育関係者及び、関係各位に改めて敬意を表します。

現代は「VUCA(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)」の時代と言われており、将来の予測が困難な時代であります。子どもたちが予測できない変化に対し、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を發揮して未来社会を創り出す「生きる力」としての資質・能力を育むことが求められています。昨年度策定された教育振興基本計画では「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」等が掲げられています。その具現化を目指しつつ、私たちが大切にしている「全日中新教育ビジョン」の趣旨を踏まえ、研究協議会主題や8つの分科会研究題を柱に参加者がそれぞれの学校経営を語り、協議を深め、今後取り組むべき課題について共通認識をもつことはきわめて意義深いものと考えております。また、文部科学省説明や講演会を通じて、知見を新たにし、様々な情報交換を行い、勤務校並びにお勤めの地域の中学校教育を充実させていくことがひいては我が国の中学校教育を一枚岩となって発展させることにつながると考えております。

さらに、本大会では、私たちの心の中において、教育に本当に必要なものは何かを考え続けるとともに、生徒の笑顔を決やさないようにすることが教育の責任の一つであるという認識を深める場としたいものです。

結びに、文部科学省、岩手県、盛岡市、岩手県教育委員会、県内各市町村教育委員会、全日本中学校長会東北地区中学校長会をはじめ、関係各位に感謝を申し上げ、挨拶といたします。